

熊本商業高等学校 令和2年度学校評価表

1 学校目標
 県教育委員会関係課から出されている「令和2年度教育指導の重点及び取り組みの方向」を基本に、本校の校訓「礼節」・「剛健」及び「反省十訓」を踏まえ、徳・知・体の調和の取れた全人教育をめざすとともに、これまでの本校教育の伝統を継承し、教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の目標
 ○豊かな人間性と健全な心身の育成
 校訓である「礼節」・「剛健」を重んじ、他者を思いやる豊かな人権感覚を身に付けるとともに、校内外における集団生活のルールやマナーを体得した規範意識の高い生徒の育成に努める。
 ○学力の向上と進路指導の充実
 確固とした進路目標を持ち、その実現のために自ら進んで学び学習する態度を育成し、学力向上に努めるとともに、個々に対応した進路指導の充実を図り、望ましい職業観や勤労観の育成に努める。
 ○地域社会の期待に応える特色ある学校づくり
 特別活動を奨励し、部活動等に積極的に取り組む姿勢を育成し、学校の活性化に努めるとともに、学校周辺の環境清掃活動やボランティア活動に積極的に参加する姿勢の育成に努める。
 ○生徒を「伸ばす」教育活動の実践
 熊本県の教職員像「認め、ほめ、励まし、伸ばす」にある「伸ばす」に力点を置き、教職員のスキルアップ、充実した学校組織の体制づくりを行い、教育活動の実践に努める。
 【教育スローガン】
 「日本一の商業高校へ ～志高く、恕と信頼の人づくり～」

3 自己総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の教育目標 日々の教育活動 (教育スローガン) の達成に努める。	学年連絡会や運営委員会、各種行事において学校の諸活動の状況を確認する。	教科指導を中心に、生徒指導、進路指導等、学校の諸活動の工夫・改善を図り、教育目標を達成する。	各分掌が掲げる具体的目標の達成に向けた取り組み状況を確認し、必要に応じて指導助言を行う。	B	校長の学校経営方針である、生徒を「伸ばす」教育活動の実践が、各分掌で推進されている。また、生徒の現状分析をすることで課題を明確にし、取組の方向性を職員間で共通認識を深める必要がある。
		「志」を高く持ち、他を思いやる「恕」の心と人と人をつなぐ「信頼」の心を持つ人材を育成する。	特別活動、部活動を含めた教育活動の全ての領域で「日本一の商業高校」の実現を図る。	規範意識の醸成と心の教育の推進を図るため、挨拶運動の徹底と「熊商人物傳」を活用し恕の精神を涵養する。	A	生徒の自己肯定感を高めることや恕の心の育成を図るため、挨拶の徹底、心の教育等、職員一丸となった教育活動が推進できている。特に生徒の校門一礼やさわやかな挨拶の励行は、来校者から高い評価を受けている。学年集会や放送による全体指導、またストレス対処教育を通じて心の教育の推進を継続する必要がある。
	熊本県の商業高校の拠点校としての指導的役割を果たす。	全領域で学校活性化に向けた取組や組織の検証を行い、改善を図る。	キャリア教育の充実と商業高校としての専門性の深化を図る。学科のあり方や教育課程の検証に取り組む。	将来のスペシャリストの育成を図り、進路目標(就職・進学)達成に向けた指導の改善・充実に積極的に取り組む。	A	商業高校の拠点校としてコロナ禍におけるWebの活用方法について、各学校に情報を発信、教材の提供など拠点校としての役割を果たした。また、高校生の到達目標を超えた資格取得指導を通じてスペシャリストの育成ができた。
業務改善、働き方改革の視点から校務分掌、学校行事等を見直す。	・職員に業務の効率化を意識させる。 ・職員に勤務時間・健康管理を意識した働き方を意識させる。	・行事の2週間前までには学年連絡会に提案できるように促し、各分掌の業務の効率化を図る。 ・部活動指導による時間外勤務の削減。	・各分掌間の連携 ・ファイル名のコード化 ・行事の精選 ・部活動指導の交代制を促進 ・部活動方針の周知と遵守	B	教育活動全般でコロナ禍を念頭に置き行事の精選や効率化を図った。また教育活動全般において効率化を意識して取り組むことができた。特にフォームズを活用したアンケートは、業務の効率化を図ることができた。毎月の衛生委員会を通じて超過勤務の先生方をリストアップし、保健指導につなげるなど勤務時間の削減をできるように工夫した。ただし、部活動に係る活動方針の順守をお願いしたが、大会直前の勤務時間の改善に課題が残った。	

	学校・保護者・地域社会等の連携とその充実を図る。	創立125年目を迎え、教育目標達成のための思いを新たに、学校の教育活動全般について更に情報発信するとともに、保護者・地域社会の理解と協力を得て、学校の活性化に繋げる。	様々な情報手段を活用して、学校の活動を積極的に発信していくとともに、学校教育及び商業教育の活性化の方策を探る。	HPの更新、報道機関への資料提供、校長室だより等を発行し、情報提供する。また、育友会とのより良い協力態勢づくりに努める。	A 学校行事や生徒の活躍等の情報発信をHPの更新を随時実施した。また安心・安全メールを活用して随時情報を発信し、保護者との連携を図ることができた。熊商デパートや商品開発を通じた地域連携、各教科における高大・高専・高幼連携をするなど、商業教育の高度化と教育の活性化を図った。コロナ渦で学校行事が縮小する中、育友会の皆様にご支援をいただき、本校教育についてご理解いただく良い機会となった。
学力向上	学力の充実を図る。	各人の学習目標を明確にさせ、予習復習の徹底を図り、家庭学習時間の確保を促す。	学習意欲を高め、学習の習慣化を図り、達成感を持つことができるよう促す。	定期的な生活時間活用調査を実施し、時間の大切さを自覚させると同時に有効かつ効果的な学習方法を身に付けさせる。	B 休校期間中の学習の範囲や進め方、そして学習状況について、学校のHPや安心安全メール以外にも、生徒や家庭にタイムリーに伝達したり、把握したりできる環境整備が必要であった。教科によってはZOOMやロイノートなどオンラインで実施していた。遠方から登校している生徒にも少ない時間で学習に取り組めるよう、タブレット等の活用も取り入れたい。
		「黙学」の有効活用を図る。	8:35までに入室・着席し、1日のスタートにふさわしい、ゆとりある学校生活を送れるように心身を落ち着かせる。	適切な課題(新聞スクラップ、検定・小論文対策等)を課すとともに、着席指導を行うことで、主体的に学習する意欲を高める。	A 遅刻する生徒が少なく、時間の管理や心身を落ち着かせる意味でも貴重な時間である。副担任や学年担当の職員が早めに教室に出向き、指導を行っているため、落ち着いて取り組むことができている。
	授業内容の充実を図る。	言語活動の充実を進めながら、生徒の学習意欲を高める授業を実施する。	公開授業を軸に教科内・外の研修を深める。特に、教科会を充実させ、担当者間の連携・連絡を密にし、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫・改善に努める。	分かる授業確立のため、学期1回以上の研究授業体制を整備し、各教科年間3回以上の研究授業を実施。更に教科の垣根を超えた公開授業を実施し、主体的かつ対話的な深い学び等の教授方法を研究する。	A 各教科で学期に1回の研究授業と10月に公開授業を実施した。プロジェクターが新規に導入されたため、ICTを活用した授業が積極的に行われた。また、FORMSを活用した生徒による授業評価を行い、担当教員に評価結果を示すことで、各教科で授業の工夫と改善が図られた。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の視点に立った基礎的・汎用的能力を育成する。	生徒に進路決定と将来の目標を見出させる指導を行う。	生徒一人ひとりが社会における自己の役割を認識し、自己の能力や適性、可能性に気づき、生涯の人生を見通した中で進路について考えるよう促す。	進路LHRや集団進路指導において、社会の情勢や人間としての在り方や生き方を踏まえた幅広い情報を提供し、自己の将来像から逆算的に進路について考えるよう啓発に努める。	B 学年ごとにテーマを設けて、講演、インターンシップ等の体験活動も交えて進路意識の高揚や情報提供を実施できた。進路学習後に、自己を見つめ将来について真剣に考える態度を持続できるような日常の支援も今後充実させたい。
		学習をはじめとする諸活動の「意味」を、将来とのつながりの中で理解させる指導を行う。	各教科をはじめ教育活動全体を通して、知識や経験の汎用性を実感できるような指導に努める。	生涯に渡る生活で、今の学びがどのように生きてくるのかを意識した授業展開・活動づくりに努めるとともに、教師一人ひとりが人間としての在り方生き方を踏まえた学習活動の意味を丁寧に語り、伝える。卒業生を囲む会や合格者体験談を聞く会を通して、学びの継続性や将来の可能性について啓発を図る。	A 社会の課題に自らがどのようにかわり、社会参加や自己実現を果たしていくかを念頭に置いた学習指導を初めとした教育活動を展開できた。例えば、熊本学園大学との高大連携事業は、生徒の学ぶ意欲を刺激し、自己の進路を深く考える良い機会になった。今後も生徒の主体的な学びを喚起する取組を積極的に実施したい。

	生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	生徒の能力・適性を把握した適切な支援により、進路目標の実現を図る。	生徒一人ひとりの進路決定までの過程を大切にし、就職・進学ともに考えさせる指導を工夫する。 ① 就職内定率100%を達成する。 ② 国公立大学合格者20名以上を目標の核とし、大学進学者数を100名以上にする。	・「面談力」を高め、生徒が目標を高く持ち、自己の可能性を切り拓くため、意欲的に進路決定に取り組むように導く。 ・生徒一人ひとりの「キャリアジレンマ」に丁寧に対応し、必要な情報提供や支援を行う。 ・各試験対策として進学課外、就職課外、公務員課外を実施する。	A	個々の生徒の進路目標の設定から達成までのプロセスに適切な支援ができるように、小論文研修会の実施を通じて全職員で指導力向上に努めた。キャリアサポーターとの連携による企業情報の提供、目標達成のための学力向上を進路別に丁寧に指導した。その結果、就職希望者は就職内定率100%を達成した。また、進学希望者も目標値に対して9割程度達成した。今後、共通テスト等を利用した受験者数を増やすことが目標達成に必要な方策である。
生徒指導	外面的生徒指導の充実を図る。	規範意識の高揚を図る。	・時間厳守を徹底する。 ・校則を遵守する。 ・情報モラル教育の充実を図る。	・黙学と運動させながら、遅刻者数の減少を図る。 ・整容検査を適宜実施し、違反者減に努める。 ・携帯電話のマナーや適切な使用方法について、学期に1回全体指導を行う。	B	熊商生としての自覚の上に順法精神を身に付けることができた。携帯電話の使用については、企画した全体指導に加えて、全職員による時機を見た指導を行っているが、一層のマナー・モラル指導が必要である。
		個に応じた多様な指導支援に努める。	・配慮を要する生徒の確実な把握。	・係職員及び交通委員による安全点検、校外指導を行う。	B	命を守るために重点的に指導を継続したが、負傷を伴う事故が発生した。交通安全については、多面的に意識の高揚を図りたい。
生徒指導	内面的生徒指導の充実を図る。	交通安全並びに自転車の盗難防止に努める。	・自転車運転マナーを徹底する。 ・自転車の二重ロックを徹底する。	・マナー・モラル教育を実施する。 ・全校集会時において、思いやりの心がいかにか大切であるかを生徒に訴えかけ、心の教育の充実を図る。 ・担任と生徒との二者面談を行い、生徒個々の内面を聞き出す。 ・生徒会主催の「心のきずなを深める集会」を実施し、「恕」の心を育成する。 ・各教科、ホームルーム活動や全校集会、講演会、黙学等、組織的系統的に各取組を実施する。	A	相手を傷つける不適切な言動は、指導の成果で激減した。しかし、なげない言葉に思い悩んだ生徒は少なくなかった。そのような生徒に担任は、教育相談部やカウンセラーと協力して該当生徒の心の健康回復に努めた。さらに、人権教育とも連携して、学級ごとに努力目標を掲げて人権意識の高揚にも努めた。
		不登校・問題行動を起こす生徒への適切な対応に努める。	・不登校や問題行動の兆候を見逃さず早期把握に努め、学年をはじめ、教育相談部・保健部及びスクール・カウンセラーと連携を図る。 ・職員全体の共通理解のもと適切な指導を行う。 ・「命を大切に心」を育む指導プログラムの取組を通して、命の大切さを常に意識した判断や行動ができる生徒の育成を図る。	・毎月10日に調査を行い、全校生徒に発信していく。 ・育友会との連携を図る。	B	ほぼ全員の生徒が校門一礼を実践している。生徒の愛校心は、校内の美化等の日常生活の随所に体现されている。
人権教育の推進	生徒も教師も「差別は許さない、見過ごさない」人権感覚の向上を図り、人権を尊重する学校づくりを目指す。	校門一礼を促し、さらに愛校心を育てる。	・風紀委員と連携を図り、自然な一礼の雰囲気づくりを行い、100%を目指す。			
		生徒も教師も「差別は許さない、見過ごさない」人権感覚の向上を図り、人権を尊重する学校づくりを目指す。	生徒人権委員会の活動を活性化させるとともに、人権・同和教育推進委員会の機能も活性化させ、学校総体で人権教育に取り組む。	・不合理な差別に気付き、指摘できる力を付ける。 ・生徒同士、職員間における仲間づくりを推進し、学校における差別事象をゼロにする。	・啓発活動(朝の放送、生徒人権委員会、人権・同和教育推進委員会、メッセージボード、資料提供など)を継続的に行う。 ・特に職員の言葉かけのスキルを高める。	B
人権教育の推進	人権教育を計画的に行うとともに、進路の保障に努める。	3年間を通じた人権教育を展開する。授業の創造(分かりやすい授業づくり)に各教科で取り組む。	・身近な人権課題への認識と過去の差別の現実深く学ぶ。 ・言語教育とコミュニケーションを中心とした、生徒が楽しく学ぶ環境をつくる。	・被差別当事者の思いに寄り添うことができるようにする。 ・研修会の開催・参加を図るとともに、資料提供による知識の更新や蓄積を図る。	A	感染症対策のため、校外研修会の中止・縮小や講演会の中止等があった。生徒向け講演会の代替授業を職員の協力で実施することができたが、今後このような状況に対応する手法を検討すべきである。

いじめの防止等	いじめを許さない学校づくりといじめを「しない」「させない」生徒の育成を図る。	いじめの早期発見に努めると共に、お互いを思いやり、自他の生命を大切にすることを育てる。	・いじめの兆候を見逃さず、定期的なアンケートや個別面談等を通して、早期把握に努め、学年、教育相談部、保健部等と連携し組織的な対応を行う。 ・家庭との連携を深める。	・本校で定めた「いじめ防止基本方針(改訂版)」に基づき組織的に対応する。	A	アンケート調査、面談週間を計画的に実施したことに加え、全職員で生徒を常に温かく見守りいじめを見逃さない教育環境の整備に取組んだ。さらに、生徒の相談に組織的に対応して問題の長期化や深刻化を防いだ。
		いじめ防止等の年間計画に基づいた取組を実施する。	いじめのない学校づくりに生徒の主体的な参画を促す。	生徒会による「いじめをなくす」ための校内放送等を活用し、生徒たち自身が話し合い、意見を出し合う中で、いじめを無くす集団を育てる。	A	生徒の主体的な活動により、いじめ撲滅の意識を高揚させることができた。
	いじめだけではなく、深刻な悩みや課題を抱えている生徒の支援を目指す。	気になる生徒の早期発見に努めるとともに、生徒自身がお互いを思いやる「怒」の心を育てる。	学年部と保健部・教育相談部との連携を強化することで、兆候を見逃さず、職員の共通理解のもと適切に対応する。	教育相談部会において、気になる生徒への指導並びに支援体制について、学年連絡会を通して周知することで、組織的な対応を図る。	A	教育相談部、学年会、スクールカウンセラー及び管理職との連絡体制が円滑に機能して、事態を深刻化、長期化させることなく問題を解決できた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育の推進と地域連携豊かな人間性と健全な心身の育成を図る。	熊本地震を教訓に防災教育の充実に学校総体として取り組む。本校の伝統を継承しながら、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	・想定外の災害に対しても冷静かつ安全に行動する姿勢を身に付ける。 ・「学校運営協議会」において、具体的な取組等の研究を進める。 ・学校行事として実施する、販売実習を充実させる。 ・地域の商店街の活性化を題材とした研究を進める。 ・幼稚園実習の内容を充実させる。 ・「避難所協力」において、熊本県、熊本市、地域の自治会との連携する。	・年2回の避難訓練の実施 ・防災マニュアルの更新 ・各教科の教育目標に防災教育を位置づけ、年間1時間程度の実施を目標とする。 ・熊商デパートの実行委員会において内容のリニューアルを図る。 ・水前寺公園商店街の活性化について地域の連携を深める。 ・神水幼稚園における実習について、連携を深めることにより充実を図る。 ・校内組織編成による避難所運営への協力体制を構築する。	A	・新型コロナ感染防止のために全校一斉の避難訓練は実施を見送った。その代り1学期には図上での避難経路確認、2学期にはシイクアウト訓練と熊商デパート前の消火器使用訓練(関係クラス等)を行った。さらに、生徒の防災意識を持続させるために、各教科の指導においても防災関連の学習を実施した。 ・地域との連携による学習活動については、関係者の御協力により、専門性と共に特に主体的に学ぶ姿勢を身に付ける最良の学習の場となっている。生徒は、授業中の机上の学びを実社会で活用することで、以後の学びの目的意識や意欲を高めることができた。 ・防災マニュアルや避難所運営マニュアルについては、折に触れ職員に周知していく必要があると思われる。
商業教育の充実	商業の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	ビジネスの理解力・実践力を評価する方法として、資格取得に向けた指導を強化する。	生徒が主体的に資格取得について目標を立てることができるよう導き、その達成を目指す。	・生徒個々の学力に応じた指導や授業内容の充実、改善、主体的かつ対話的な深い学び等を取り入れた魅力ある授業実践を図るため、担当者間の連携を深め、各学期に研究授業等を実施する。 ・課外等の補完的授業を通して、生徒の基礎的・基本的な学力が確実に定着するよう指導する。	A	魅力ある授業実践、授業力向上の為、研究授業だけでなく、新教育課程に向けての研修会や、情報処理に関する職員研修を年間を通して計画的に行った。ICT機器の活用は、生徒の学習に効果的であるが、機器不足により十分な活用ができていない。商業教育における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生徒や保護者、企業からの要望も高い資格取得に向けて今後も引き続き取り組んでいく。

<p>ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付け、ビジネスの諸活動を主体的・合理的かつ公正に行う能力を育てる。</p>	<p>求められる3つの資質(人間関係能力・社会性・倫理観)を伸長する。</p>	<p>・授業で学んだ専門的知識・技術を試す実践の場を設け、総合的な人間力、資質の向上を図る。 ・体験的な学習を通してビジネスマナーを身に付けさせるとともに、定着指導に努める。</p>	<p>・販売実習である「熊商デパート」への取組みを通して、ビジネスに対する姿勢やコミュニケーション能力の育成を図る。 ・事前の指導や企業研修を通して、ビジネスマナーの必要性について理解させるなど、定着指導を行う。 ・情報モラルについても、情報処理の授業を中心に涵養を図る。</p>	<p>A</p> <p>「熊商デパート」については、新型コロナウイルス感染症の関係で保護者や学校関係者に限定しての開催となった。コロナ禍の中、QRコードを利用した商品案内や新しい接客方法についても学びを深める機会となった。業者折衝や接客マナー等の体験的学習を通してビジネスに対する姿勢やコミュニケーション能力の育成を図ることができた。情報モラルについても情報処理、ビジネス基礎の授業を中心として、日々生徒に理解させることができた。</p>
<p>ビジネスの諸活動を主体的、合理的かつ倫理観を持って行い、地域や経済社会の発展に寄与する能力と実践的な態度を育てる。</p>	<p>ビジネス活動に対するグローバルな視点や企画力・表現力を育成する。</p>	<p>・「課題研究」や「商品開発」、「電子商取引」などの学習を通して広い視野を育て、企画力・表現力の向上を図り、ビジネス諸活動の主体的構成者としての資質や能力を育成する。 ・高大連携プログラムやベンチャーマーケットなどを活用した専門性の深化により、将来のスペシャリストの育成を図る。</p>	<p>A</p>	<p>「課題研究」では、「ケーススタディや商品開発、プレゼンテーション等の活動を通して、言語活動に必要な表現力や積極性、企画力を身に付けることができた。また、高大連携プログラムやベンチャーマーケットに参加し、より専門的な知識や実社会で求められている力を知る良い機会となった。</p>

※評価A～Cについては、A・・・達成できた、B・・・概ね達成できている、C・・・課題が残る、を基準に評価した。

4 学校関係者評価

【学校経営】

- 学校の目標とその目標を達成するための学校組織(各部)が実に計画的に組織されているのに感心しました。また、各部が実に明確な分析に基づいて、具体的な取り組みとフィードバックを行っているので成果と課題が非常にわかりやすいと感じました。
- 学校長の経営方針にある「伸ばす」をキーワードとした各部の活気ある取組が伝わってきます。また、商業の基本である人づくりの精神を強く感じ取ることが出来ます。質実剛健であり、文武両道を目指す本校の取組を今後ともさらに継続してください。
- コロナにより、先生方におかれては例年とは違う対応や新たな取り組みなど業務負担も大きかったことと思いますが、その中でも業務効率化を推進されたようで、驚きました。生徒の皆様の楽しく活き活きとした学校生活のためにも先生方のワークライフバランスは学校経営の重要な課題だと思えます。
- 熊本県の商業教育の拠点校として、教育スローガンに基づき十分な経営をされていると評価できます。
- 職員一丸となった教育活動は素晴らしいと思います。また、校門一礼もずっと続けてほしいと思います。コロナ禍において運営も大変だったと思います。Webの活用等の工夫がなされ成果をあげられ素晴らしいです。
- 目標達成に向けた具体的方策を実施され、十分な成果が得られたものと考えます。

【学力向上】

- 目標の明確化と予習の大切さがあらためて分かりました。また、授業内容の充実を図るために、学期に1回の研究授業と10月の公開授業を実践なさっていることに驚きを感じるとともに、その取り組みの成果が生徒の学ぼうとする姿に現れていることがよくわかりました。
- 生徒のアンケートに「何をしたいかわからない」との回答が33%にのぼっています。このことは将来の姿が想像できていないことに起因すると思えます。「何のために学ぶのか」「何を学ぶのか」という明確な意図を持つことで自発的な学びにつながると考えます。
- 先生方は大変かなと思いますが、FORMSを活用した「生徒による授業評価」にはとても興味深い取り組みだと思います。生徒の授業への集中度やモチベーションに与える良い影響があったのではないのでしょうか。
- 学力向上のため、現行で考えられる授業内容で、十分な対策をされていると評価できます。
- ZOOMやロイノートの活用で、学力保証をされており、すばらしいです。今後さらに変化に対応した取り組みに期待します。
- 情報通信技術の積極的活用で、学力向上に寄与することができたと考えます。

【キャリア教育】

- 結果・成果が見えるものだけに頑張る生徒の課題を指摘されていっしょに納得しました。小学校においても、「何のためにその仕事をしたいの?」「何のために勉強するの?」といった目的意識や努力する意味について理解をさせていく必要があると感じていましたので、大変、学ぶべきことがありました。また、生徒本人の希望だけでなく、能力や適性を見出し、それを伸ばしていく積極的な働きかけも進路指導に欠かせない要素だと強く感じました。
- AI等の急速な進化・発展により10年後は現在の職業の約半数が消滅するといわれています。不透明な将来に向けて必要とされる力は何かを考えていかなければならないのではないのでしょうか。生徒にとっては、従来からの商業的な学びと併せ、ベンチャー精神を養う「企業家教育」も重要な一つだと考えます。
- 「生徒の進路目標の実現」が評価の観点にあるならば、具体的な目標に「国公立大合格者20名以上、大学進学者100名以上」という数値が上がることは矛盾を感じました。
- 生徒さんの進路と将来の目標に関して、十分な指導をされていると評価できます。
- このような状況で就職内定100%はすばらしいです。
- 就職内定率100%は素晴らしい成果である。

【生徒指導】

- 遅刻者の大幅な減少が結果的に表れていて大変驚きました。学校全体として連携を取りながら取組をなされた成果ではないかと感じいたしました。また、時間を守るという「基本的なこと」をしっかりと行うことが、生徒たちの質の高まりにつながるようになりました。発達段階に配慮しながらも、小学生の時期から基本的な習慣を身に付けさせなければならないと痛感しました。
- 伝統校らしい質実剛健な気風があり、生徒指導面でもたいへん落ち着いていることが伝わってきます。生徒が社会に出たときに大事なことは「人間性」や「マナー」であると考えます。生徒指導は「人づくり指導」ととらえ今後も継続して指導をお願いします。
- 貴校にお伺いした際に生徒様がしてくださるさわやかで気持ちのこもった挨拶にはいつも感心させられます。生徒様への意識付けが行き届いていると同時に挨拶の意義を生徒様が理解されているためだと思います。厳しい指導によって、ではなく、生徒が自ら考え判断し行動ができるような教育・指導を私も見習いたいです。
- 外面的指導だけでなく、難しい内面的な指導に関しても十分な指導をされている点が評価できます。
- 携帯電話は便利な反面、悪い方向に向かう危険もあると思います。マナー・モラルは本当に身につけてほしいと思います。
- 課題を踏まえ、継続的取り組みをお願いします。
- 今年度の努力目標に「交通規則の遵守」とありますが、自転車通学性の信号以外の一旦停止の無い交差点や丁字路での安全確認が足りないように思います。スピードを落とさずに脇道から飛び出しなどはよく目にします。生徒本人の交通規則を守るという自覚も必要ですが、学校周辺の方々にご迷惑をかけることにならないよう再度ご指導をお願いしたいです。

【人権教育の推進】

- 不合理な差別に気づき、指摘できる力をつけるために、不可欠な土台として、「安心して自分の思いを語ることができる集団」が必要であります。そこに、しっかりと気付き、特化した取組がなされているのが実に素晴らしいと思いました。
- コロナ禍において、人権教育の重要性は更に増しています。SNSの普及により情報は信じがたい速さで拡散されます。り患者に対する誹謗中傷や情報の拡散などに最新の注意を払わなくてはなりません。これまでの人権教育に加えこのことも強く推進していただくようお願いいたします。
- 企業の中でも、職場でのコミュニケーションや広告などにおいて人権を損なわない、差別的ではない言葉の表現力というもの求められます。生徒様が自分たちの身近な課題として捉えて学んでいかれることを期待したいです。
- 長期的な取組が必要なところもありますが、細かく十分な対応をされていると評価できます。
- 人権教育はとても大切な教育だと思います。学校生活すべての中で人権教育は存在すると思います。
- 目標に向けて適宜な取り組みにより十分な成果が得られたものと考えます。

【いじめの防止等】

- 生徒たち自身が話し合い、意見を出し合うことが、いじめをしない集団作りにつながるという取組が心に残りました。やはり、生徒自身が主体的に考え、話し合い、価値観を共有しなければこの問題は解決しないと思います。また、先生方の連携が実に素晴らしいなあと感じました。大変、参考になりました。
- 生徒たち自身がいじめについて意見を出し合い、活動につなげるという取り組みは素晴らしいと思いました。
- いじめは、教職員が切実に受け止め、徹底して取り組むべき重要な課題です。いじめをなくすためには、日頃からわかりやすい授業の実施や生徒指導の充実を図り、生徒が楽しく学び、いきいきとした学校生活を送れるようにしていくことが重要だと考えます。今後もこれまで通り、丁寧且つ継続した取組をお願いします。
- もともと苦慮されるところで、対応も難しいと考えられますが、生徒さんを守り寄り添った対応をされていると評価できます。
- 生徒会を中心に主体的な取り組みで、生徒たちが自分の問題として受け止めることで意識が高まっているのだと思います。
- 各関係部署との連携強化と生徒の皆さんの主体的な活動で大きな成果が得られたと考える。

【地域連携】

- これまで通り、地域の防災拠点として地域住民から頼られる存在であることを望みます。また、好立地を生かし、地域商店街との連携を深め、熊商の最大の強みである生徒による新商品開発や提供など商業的なつながりを深め、地域から頼りにされる存在として頑張ってください。
- コロナにより店頭実習へのお受入れができなかったが、出前研修に形を変えたことで「熊商デパートに合わせた内容の研修を太田先生のご協力のもと実施できました。具体的な目的や課題に取り組むことができ、起業としても関わり安さを感じました。
- 有名な熊商デパートをはじめ、水前寺公園商店街の活性化など実に興味深い学習内容が示されていました。ぜひ、その内容を聞いてみたいと思いました。
- 積極的に取り組まれており、評価できると思います。
- 今年度は、なかなか地域との交流ができず残念でした。
- 十分な成果が得られたと考える。
- 今年度はコロナ禍ではありましたが、創意工夫をしながら訓練等を実施していただきました。まだまだ先が見えない状況ですが災害はいつ発生するか分かりません。今後ともあらゆる災害を想定し、先生方を始め生徒も冷静に対応できるよう訓練等を継続してください。
- 発災時防災担当職員不在を想定し、担当者以外でも初動対応可能なマニュアルの作成及び実働訓練を実施することで、職員全体の防災意識向上につながると思います。生徒さんについても避難所設置や運営訓練に参加させてみるのはいかがでしょうか。将来的に活かせる気がします。
- 熊本商業高校が立地する砂取小学校区では、校区防災連絡を設立後、5ヶ所ある避難所のうち、2ヶ所(砂取小・市立総合体育館)の町内分担任は整理されていますが、残り3ヶ所(熊本商業高校・熊本工業高校・水前寺陸上競技場)については、調整が継続中です。しかし、熊本商業高等学校が、平成30年4月に作成しているマニュアルには、施設の利用方法や班の役割分担など、それぞれのルールが整理されているため、今後は運営方法について、地域との継続した認識の共有が重要だと感じています。令和3年4月17日(土に予定されている震災対処実働訓練では、必須訓練として「身体的距離を確保した避難スペースのレイアウト検討」「体調不良者の待機場所決定」「要配慮者の待機場所決定」を挙げていますが、後者の2つは、既にマニュアルで決定されているため、体育館3階アリーナのレイアウト検討が主になるかと思いますが、今後、避難スペースを明示するための物品等を追加する予定にしていますので、今一度、レイアウトについて再確認をいただくと幸いです。

【商業教育の充実】

- 意図的、計画的な取組の成果がよく表れてきているのがよくわかりました。熊本県をはじめ全国の多くの商業高校のモデル的な取組がなされていることと学校の先生方の意欲、勢いのようなものを感じました。
- 商業に関するスキルアップ、高度な資格取得に加え、本校の目指す「人づくり」を大きな資源ととらえ、社会から求められる人材教育に努めてください。
- キャリアの流動化が当たり前となっている現代において、「専門性」を持つことは個人の大きな強みになると思います。
- ICTに関しても積極的に取り組まれており、評価できると思います。
- 様々な資格取得がらみばっておられ、内定率の高さにつながっているだろうと思います。生徒たちの視野の広がりにもなると思いますので、これからもさらに充実させていきたいと思います。
- 熊商デパート開催はコロナ禍の中で大変だったと思うが、新たな取組みができたのではないかなと思う。

【その他】

- 明確なビジョンをもち、それを達成するための組織的な動きがみられることに感じました。また、その結果を数値的に表現することの重要性も改めて学ぶことができました。ありがとうございました。
- 今年度はコロナ渦で本当に大変だったことでしょう。それを乗り越えて、様々な工夫をされていて、生徒さんたちに教育を補償されているのは素晴らしいと思います。
- 教職員の皆さんの事務的・心理的負担の軽減
- 新型コロナウイルスに感わずかれ、悩まされた一年でした。学校も生徒も制限や規制の中、十分に力を発揮できなかった子や運動系においても文科系においても我慢の一念で不憫に思います。高校生のうつ病や精神的に不安定な子が多くなっている現状、学校としても早期のケアなどを希望します。
- 心の疾患を発症した生徒さんに寄り添っていただけましたらありがたいです。ぜひボランティア活動を勧めてください。

【学校経営】

○学校の教育目標およびスローガンに基づく各部の取組みについて、計画的・組織的な対応をしているという評価をいただいた。また生徒、保護者のアンケートにおいても「よく実践されている」という回答をとともに9割以上得た。ただ、業務改善と働き方改革の視点から、職務の割り振りについて検討する必要がある。

【学力向上】

コロナ禍における学力保証への取組みとして、ZOOMやFORMSおよびロイノートなどオンラインによる教材提供を実施したこと、ICTを活用したわかりやすい授業展開をしていること、さらに学期に1回の研究授業・公開授業への取組みについて、学力向上に寄与しているという評価をいただいた。学習指導についてはさらなる研究と修養に励み、指導力を向上させる。

【キャリア教育】

進路講演会やインターンシップ、高大・高専連携への取組は、自己の進路を深く考え、生徒一人一人の能力や適性を見出す良い機会となっているという評価をいただいた。その結果、国公立大学への合格や就職内定率100%へとつながっていると考えられる。本校キャリア教育をさらに充実させるために、3年間を見通した系統的・計画的な指導について発展させるために議論を深める。

【生徒指導】

校門一礼や挨拶の意義を理解した生徒の行動などの人づくりや多様な生徒に対する指導については、生徒指導部、学年部、教育相談部、SC、SSWがチームとして連携して取組んでおり、高い評価を得ている。ただし、一部の生徒によるSNSの利用の仕方や自転車の乗り方についての課題を解決する必要がある。

【地域連携】

熊商デパートにおける協賛事業所との連携、地域商店街の活性化への取組み、熊商の最大の強みである生徒による新商品開発が商業的なつながりを深め、地域から頼られる存在であるという評価を得ている。また避難所協力における熊本市と連携した取組み(マニュアル作成、それに伴うルール作り)が評価された。

【商業教育の充実】

熊本県の商業教育の拠点校としてのコロナ禍におけるWebを活用した職員の積極的な取組みと他校への情報発信および連携、感染症予防対策をとり実施した新たな熊商デパート、および簿記・情報分野における高度資格取得の達成について大変評価された。これらは生徒、保護者アンケートにおいては98%が「本校に入学させて良かった、おおむね良かった」と回答している結果につながっていると考えられる。

6 次年度への課題・改善方策

【学校運営】

○学校経営方針である生徒を「伸ばす」教育活動の実践をより推進するために、生徒の学習面・生活面・進路面の現状分析を実施するだけでなく、各校務分掌にフィードバックさせることで、より具体的な取組みと職員間の共通認識を深め、本校の教育活動を活性化させる。

○先生方のワークライフバランスは学校運営の重要な課題だという指摘があった。学校目標を達成するための組織的な取組みを継続しながら、校務分掌を見直すなど負担軽減を図りながら、働き方改革につながる業務改善を実施する。

【学力向上】

○生徒の主体的・自発的な学びにつながるように総合的な探求の時間の活用を視野に入れ、熊商デパートと関連づけるとともにキャリア教育の視点を取り入れながら整備する計画である。生徒一人ひとりが現状への課題意識をもち、主体的な学びと将来の展望が具体的になるよう指導改善する。

○学力向上委員会において、生徒の学習状況に合わせて到達度を設定し、学びのPDCAサイクルがよりスムーズに循環するよう推進する。

○部活動と学習との両立を図るため、短時間でも学習に取り組みめるようにタブレット等を活用した教材提供を行うなどオンライン学習を推進する。

【キャリア教育】

○本校において3年間系統的・計画的な進路指導が実践されている。これまでの進路指導や情報発信を継続しながらさらに充実させ、より一人ひとりのキャリアプランに合うように進路ノートとスケジュール帳を活用しながら生徒・保護者との連携をより深める。

○熊商デパートにおけるインターンシップや高大・高専連携を継続しながら、総合的な探求の時間を活用することを視野に再構築する。

【生徒指導】

○本校の人づくり教育について評価が高いものの、SNSの活用、情報モラル、交通モラルについて一部の生徒に課題がある。全職員による時期を見た指導に加え、熊商生としてのより一層の自覚を持つ指導を徹底することで意識の高揚を図るとともに、安心・安全、健康・命を守る教育をより推進する。

【地域連携】

○避難所運営について本校独自のマニュアルを作成し、熊本市と連携した取組みを実施している。今後は、地域代表者にも参加していただき、マニュアルの情報共有と役割分担を確認するなど連携強化を図りたい。

【商業教育の充実】

○コロナ禍におけるWebを活用した学習指導がある程度確立した。GIGAスクール構想を想定してより一層の工夫・改善を推進する。

○本校職員のスキルアップを図るために職員研修や研究授業への取組み、教材の共有化を図るなど一定の成果を上げることができた。これをさらに商業教育の拠点校として全県下に拡げ、本県商業教育が活性化するよう役割を果たす。